

スアブウォール・ネオ 標準施工要領書 ver.4

☆本製品を施工する前には、必ず下記の施工要領書をご一読ください。

| タイプ | 容量(kg) | 施工方法 | 標準塗り回数 | 標準施工厚 | 標準塗布量 |
|-----------|-----------|---------------------|--------|--------------------|---------------------------|
| コテ塗りタイプ | 2kg, 16kg | ステンレスコテ プラスチックコテ | 1回塗り | 0.6~0.8mm 厚塗り不可 | 0.6~0.8kg/m ² |
| ローラー塗りタイプ | 2kg, 16kg | 砂骨ローラー(細目) | 1~2回塗り | 0.2~0.3mm 厚塗り不可 | 0.32~0.4kg/m ² |

※標準施工面積 コテ塗りタイプ：約1.2~1.65 m²/kg、ローラー塗りタイプ：約2.5~3.1 m²/kg

※本製品は、室内専用品ですので、浴室内外壁にはご使用いただけません。

★適合下地

- ・石膏ボード、ビニールクロス、合板、モルタル、コンクリート、プラスター、既存塗り壁等

★施工道具

- ・ローラー塗りタイプ：砂骨(マスチック)ローラー(細目又は極細目)
- ・コテ塗りタイプ：ステンレスコテ(厚0.3mm)、プラスチックコテ、地ペラ等

★準備

- ・養生テープや養生シートを用いて、あらかじめ柱や床などの汚したくない箇所を養生します。
- ・施工面に凹凸がある場合は、パテ処理をして平らにしてください。
- ・合板や既存壁など汚れやアクが出る可能性のある下地の場合は、アク止め処理として、市販アク止めシーラー又はナチュラルシーラーを塗布してください。
- ・アク止め処理後、アクが出ない事を確認してからスアブウォール・ネオを施工してください。

★揉みこみ or 攪拌

- ・使用する前に、本製品がビニール袋に入った状態で、全体的に柔らかくなるようによく揉んでください。または、ビニール袋からバケツ等に取り出し、電動ドリル等に攪拌用羽根を取付けて軽く攪拌してください。

★塗り付け作業(ローラ塗りタイプ)

- ・本製品をビニール袋からローラーバケツに取り出し、軽く攪拌します。
- ・砂骨ローラー(細目 or 極細目)でローラムラが出ないようにローラーを縦横に転がして、材料を平均に塗り付けてください。1回塗りで仕上がりますが、2回塗りをする場合は、なるべく薄く下塗り(1回目)し、生乾きの内に追っかけて仕上塗り(2回目)をしてください。
- ・材料は、水分が蒸発しないように蓋等でカバーしながら使用して下さい。

★塗り付け作業(コテ塗りタイプ) ※ステンレスコテで塗り付けする場合

- ・本製品をコテ板に少しずつ取り出します。
- ・ステンレスコテまたはプラスチックコテで塗り付けをします。量1/4分程度塗りつけたら、すぐに(表面が乾かないうちに)仕上げパターン付けを行ってください。下地が透けない程度の厚さで塗ってください。1回塗りで仕上げる事が出来ます。

★仕上げ後の注意事項

- ・施工後は水分がたくさん蒸発しますので、湿気がこもらないように、十分な換気をし、よく乾燥するようにしましょう。
- ・暖房器具等による急激な乾燥は、クラックや硬化不良の原因となりますのでお止めください。

石膏ボード（新規）に直接施工する場合（新築など）

★施工前の注意事項

- ・石膏ボードは、天井面は9.5mm厚以上、壁面は12.5mm厚以上を使用してください。
- ・石膏ボードが問題なく貼り込まれているか確認してください。
- ・石膏ボードが10～15cm間隔でビス止め(ステンレス又は高耐食ビス)されているを確認して下さい。
- ・ビス頭の凹部やボードの継ぎ目は、施工前日にパテで平滑に埋めて下さい。
- ・開口部廻りに石膏ボードの継ぎ目がこないように注意してください。
- ・施工面以外は、汚れが付かないように養生してください。

★施工手順

1. 石膏ボードを固定しているビスや釘の部分をパテで平らに埋めます。
2. 石膏ボードの継ぎ目部分のV溝部のみをパテで平らに埋めます。
(再度上からパテ処理しますので、多少凹んでいるくらいで良いです)
3. 2のパテが乾燥したら(施工後4時間以上)、その上からファイバーテープを貼り付けます。
4. ファイバーテープは、弱粘着で剥がれ易いので、すぐにその上からパテ処理をします。
パテをファイバーテープの上から幅15～20cm程度で、ファイバーテープのメッシュが隠れる程度の薄さで滑らかな坂になるような感じで塗りつけます。
5. 部屋の出隅部は、石膏ボードの上からストーンコーナーテープを貼付し、石膏ボードとコーナーテープに掛かるようにファイバーテープを貼付し、パテで平らにパテ処理します。
パテは角より多少出っ張る程度にし、乾燥後に細かいサンドペーパーにて整形します。
6. 部屋の入隅部は水性ウレタンコーキング材(外壁専科)を充填し、滑らかになる様に指等で均します。
(この処理は入隅部のクラック防止対策です)
7. 合板部分はアクが出ますので、アク止め処理としてアク止めシーラーを塗布(2～3回塗り)してください。
8. 下地処理が終了後、乾燥したら(翌日以降)、スアブウォール・ネオを塗って仕上げます。

下地が合板の場合

★施工手順

1. 石膏ボードと同様にパテ処理をしてください。
2. 合板はアクが出ますので、アク止めシーラーを塗布(2～3回塗り)してください。
3. 下地処理が終了後、乾燥したら(翌日以降)、スアブウォール・ネオを塗って仕上げます。

下地がコンクリート・モルタル・プラスターの場合

★施工手順

1. アクが出る場合は、アク止め処理としてアク止めシーラーを塗布(1～2回塗り)してください。
2. 乾燥後(12時間以上)、スアブウォール・ネオを塗布して仕上げます。

下地がビニールクロスの場合

★施工前の注意事項

- ・ビニールクロスを剥がさずに、ビニールクロスの上から塗ることができます。
- ・凹凸のあるビニールクロスに塗った場合、1回塗りで仕上げると、クロスの凹凸模様が出てしまう事もありますが、予算と時間を抑えたい場合は、1回塗りをお勧めいたします。
- ・コテ塗りタイプで凹凸模様をあまり出したくない場合は、凹んでいる部分を埋めるように薄く、スアブウォール・ネオを塗ります。乾燥後(翌日以降)に仕上げ塗りでもう一回スアブウォール・ネオを塗ります。合計2回塗りになります

★施工手順

- 1, ビニールクロスの表面を濡れぞうきんなどで清掃してください。
- 2, タバコのヤニなどの汚れがある場合は、ピュアクリン等のクリーナーで清掃し、全面にアク止め処理としてアク止めシーラーを塗布(1~2回塗り)してください。
- 3, クロスの剥がれや浮きなどがある場合は、クロス糊等で貼り戻す又はクロスを切り取って市販のパテ等で平らに処理してください。
注：下地が石膏ボードの場合は、タッカー止めはしないでください。
ボードを痛める原因となりますし、石膏ボードにタッカーは止まりません。
- 4, 下地処理と養生が済みましたら、乾燥後にスアブウォール・ネオを塗布して仕上げます。
- 5, クロスの上から塗る場合は、凹凸の程度に寄りますが、平面(石膏ボード等)に塗る場合に比べ、2~3割程度材料が余分に掛かります。

ビニールクロス・布クロス・紙クロスを剥がして施工する場合

★施工前の注意事項

- ・ビニールクロスを剥がす場合は、クロスの裏紙もなるべくきれいに剥がしてください。
- ・施工手順は下記の2種類があります。

★施工手順①

- 1, 汚したくない部分を養生テープや養生シートで覆ってください。
- 2, クロスの裏紙が残っている場合は、裏紙の浮き防止対策として、ナチュラルシーラーを5倍に薄めて、表面に塗布します。(裏紙に染み込むようにたっぷり目に塗布してください)
- 3, 2が乾燥後(塗布後2~4時間以上)にナチュラルシーラーを全面に塗布して下さい。
- 4, 裏紙の剥がしムラによって発生したふくれ部分は、カッターで切り取ってから、再度、ナチュラルシーラーを塗布して下さい。
- 5, 下地処理後、乾燥したら(翌日以降)、スアブウォール・ネオを塗布して仕上げます。

★施工手順②

- 1, ビニールクロス又は塗装下地用クロスを捨て貼りします。
- 2, 養生後、その上からスアブウォール・ネオを塗布して仕上げます。

布クロス・紙クロスの上から施工する場合

★施工手順

1. 表面のほこり等を清掃します。
2. クロスの剥がれや浮きなどがある場合は、クロス糊等で貼り戻す又はクロスを切り取って市販のパテなどで平らに処理してください。
注：下地が石膏ボードの場合は、タッカー止めはしないでください。
ボードを痛める原因となりますし、石膏ボードにタッカーは止まりません。
3. 汚したくない部分を養生テープや養生シートで覆ってください。
4. ナチュラルシーラーを3倍に薄めて、表面に塗布します。
吸い込みが大きいので、たっぷりめに塗ってください。※吸い込み止めになります。
5. 乾燥後(4時間以上)にナチュラルシーラーを薄めずに再度塗布します。
6. 下地処理後、乾燥(4時間以上)したらスアブウォール・ネオを塗布して仕上げます。

下地が塗り壁の場合

★施工前の注意事項

- ・古い塗り壁はアクが出ますので、アク止め処理が必要です。
- ・施工手順は下記の2種類があります。

★施工手順①

1. ポロポロ剥がれてこない塗り壁(仕上げ部分)なら上塗りで仕上げる事が出来ます。
2. 塗り壁は、アク(シミのように変色してしまう)が出たり、水分の吸い込みが大きいのでアク止め処理兼吸い込み止めとしてナチュラルシーラーを塗布しますが、
まず、3倍に薄めたナチュラルシーラーを塗布し、それが乾燥後(塗布後2~4時間以上)に、
ナチュラルシーラーを薄めずに再度塗布します。
3. 2が、乾燥したら(翌日以降)スアブウォール・ネオを塗って仕上げます。
※アクが強い場合、ナチュラルシーラー1回塗りでは止まらない場合もありますので、
乾燥後に確認して、アクが出ている場合は重ね塗り(2回塗り以上)をして下さい。

★施工手順②

1. ポロポロ剥がれてくる塗り壁(仕上げ部分)は、剥がしてからスアブウォール・ネオを塗る事をお勧めします。
2. 繊維壁(特に古い)は、剥がれやすいので、上から塗ることはあまりお勧めできません。
3. 塗り壁(仕上げ部分)の剥がし方は、霧吹きで水を掛けて十分に湿らせてから、金ヘラ(皮スキ)で剥がします。※塗り壁(仕上げ部分)の厚みは2~3ミリ程度なので、
下地のプラスター(セメントのような部分)まで、削ってしまわないように注意してください。
4. 塗り壁は、アク(シミのように変色してしまう)が出たり、水分の吸い込みが大きいのでアク止め処理兼吸い込み止めとしてナチュラルシーラーを塗布します。
まず、3倍に薄めたナチュラルシーラーを塗布し、それが乾燥後(塗布後2~4時間以上)に、
ナチュラルシーラーを薄めずに再度塗布します。
5. 乾燥後(翌日以降)、スアブウォール・ネオを塗って仕上げてください。